



急成長さなかの小休止

ダン・アンド・ブラッドストリート（ベトナム）による最新の企業景況感指数には、年初からこれといって明るい材料はないようである。6指標すべてが全セクターにおいて低下した。しかし詳細を見ると、この低迷は季節的な修正である可能性が高く、翌四半期には反発が予想される。総合指数は2四半期連続で40%超を記録した後、2016年第1四半期は前四半期の45%から半分の22%に低下した。

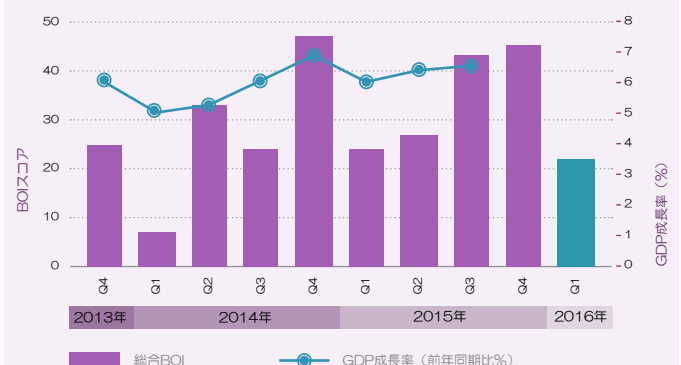
- 最大の下落幅を記録したのが純利益で、前四半期の88%から今四半期は43%となった。売上高も同様に下げたが、71%から36%と下げ幅は若干小さかった。建設、鉱業、製造セクターで大きく下落した。
- 販売価格は、前四半期の3%からほぼ同水準の2%を維持した。前年同期比では10ポイント減と6指数の中で最大の下げ幅となったが、今年の超低インフレ（予想は1%未満）を考えれば当然といえる。
- 今四半期の新規受注は67%から29%に急落したが、サービス、輸送、通信および公益がかなり持ち堪えていることは注目に値する。在庫水準は20%から12ポイント減の8%と、下落幅は比較的緩やかなものとなった。
- 従業員数は、20%から4ポイントの下方調整で16%を記録した。今年の安定かつ前向きな経済見通しに下支えされ、前年同期比では11ポイント増と、6指数の中で最も大きく上昇した。

前年同期比ではこれらの変化は緩やかで、ほとんどの指標でその増減は±10ポイントに収まっている。総合指数も2015年第1四半期と同水準であった。実際に過去2年においては、第1四半期に同じような下落が見られる（下図参照）。したがって、D&Bでは、この下落は循環的な性質のものとして見ており、第2四半期は

上昇を予想している。最近の通貨の変動も、特に製造セクターにおいて事業環境に影響を落とした可能性がある。

全体としてベトナム経済は加速基調にある。成長率は最低でも6.5%と見積もられており、産業部門および建設では10%成長が見込まれる。D&Bでは、今後数年の成長を下支えするいくつかの要因を把握している。第一の要因は、中国から低コスト地域への低価格品の製造拠点の移転が続く中で、ベトナムからの輸出が堅調に推移していることである。2015年は多くの新興市場からの輸出が減少したにもかかわらず、ベトナムからの輸出はいまだ二桁に近い成長を維持している。またその他の要因として挙げられるのが、金融緩和政策である。インフレ率が低いことで、中央銀行には低金利を維持する余裕がある。一方で銀行業界では、与信額の増加が加速する一方で、不良債権の水準は大きく低下するなど、回復の兆しが徐々に見え始めている。

総合景況感指数（2013年第4四半期～2016年第1四半期）





売上高



↓
35.0
前四半期比



純利益



↓
41.0
前四半期比



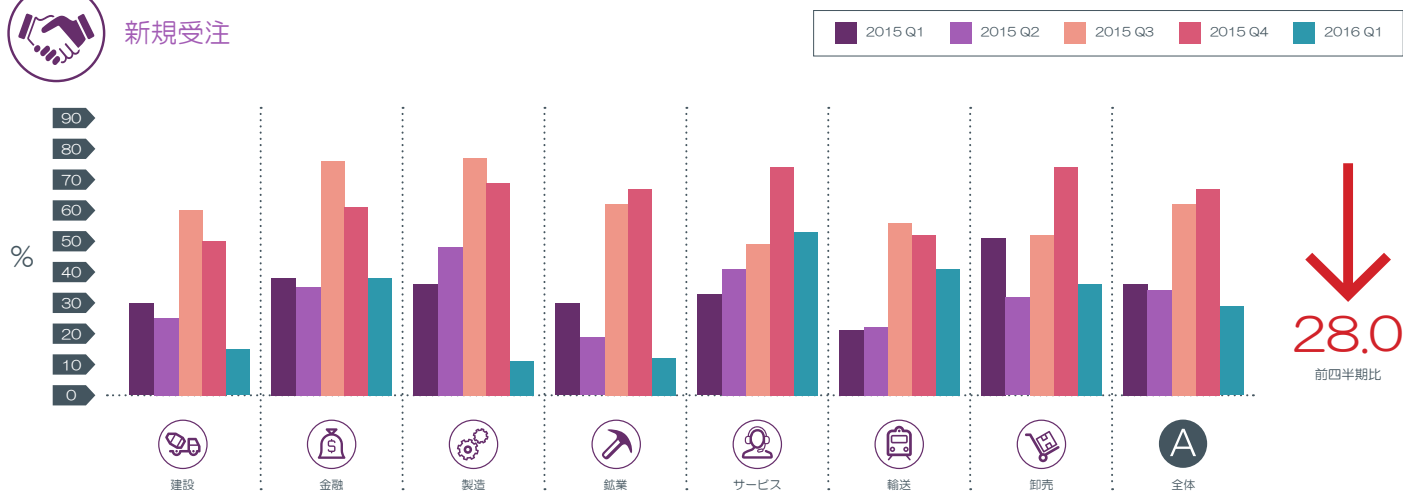
販売価格



↓
1.0
前四半期比



新規受注



在庫



従業員数

